

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
生体分析化学実習	2年次	必修	実習	2単位（90時間）	小丸 圭一
授 業 概 要					
<p>各種生体試料成分について、生化学的検査および免疫学的検査の観点から生物学的分析の反応原理と臨床的意義について習得し、得られた結果の解釈と評価について学習する。 また、採血から検査に至るまでの検体の取扱い方や取扱いによる結果への影響を修得し、検体の大切さを教える。さらに種々の精度管理法を用いてデータ管理を修得する。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・各測定項目の測定原理の説明ができる。 ・各成分の正常値がわかる。 ・測定項目と疾患との関係が理解できる。 ・精度管理の意味を理解する。 ・微量な検体を正確にピペティングすることができる。 ・酵素の性質を十分に理解する。 ・測定項目により検体の種類、取扱いが異なることを理解する。 ・抗原抗体反応の基本原則を理解できる。 ・感染症の診断法を理解し、疾患毎の検査方法を修得できる。 ・生体成分の免疫学的測定法を理解できる。 					
実務経験のある教員					
学 習 内 容					
回					担当教員
1-4	実習講義 検体放置による測定値への影響：Na、K、Cl 抗凝固剤による測定値への影響：Ca				小丸 圭一
5-9	75gOGTT（SMBG、CGM） 血糖測定における方法間比較（GOD-POD法、GOD-電極法） HbA1c測定（酵素法）				
10-14	血清脂質の食後変動 TG（LPL-GOD-POD法）、TC（CEH-COD-POD法）、LDL-C、HDL-C				
15-19	体位による測定値への影響：総タンパク質（Biuret法）、アルブミン（BCG法）				
20-24	性差による測定値への影響：尿素窒素（ウレアーゼ法）、尿酸（ウリカーゼ法）				
25-29	溶血による測定値の影響：LD、AST、ALT 抗核抗体検査（間接蛍光抗体法）				
30-34	感染症検査：HBs抗体、インフルエンザ抗原（イムノクロマト法） 感染症検査：梅毒検査（STS法、TPPA法）				
35-39	補体系検査：CH50 炎症マーカー：CRP				
40-45	腫瘍の検査：血清タンパク電気泳動、免疫電気泳動、免疫固定				
学 習 方 法					
<p>本実習は各検査項目を測定することで、精度管理の概念に基づき測定原理や生理的变化について理解し、生物化学的検査の実際を習得するため、やむを得ない事由を除き、事前説明および実習に遅刻や欠席があった場合は、実習の出席を認めないことがある。</p>					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。 ・レポート等（40%）及び実習試験等（60%）により評価する。 ・再試験はレポートの再評価を行わない。 					
先 修 科 目					
生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、生化学Ⅲ					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕 臨床検査実習書シリーズ 臨床化学検査学 実習書 医歯薬出版 標準採血法ガイドライン 日本臨床検査標準協議会（JCCLS） 臨床検査学講座 免疫検査学 窪田哲朗 他 医歯薬出版 病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症 森尾知宏 他 MEDIC MEDIA 配付資料</p>					